

各森林管理局国有林材供給調整検討委員会実施状況

平成27年11月26日現在

局	開催日	概要	供給調整の必要性の有無
	第1回 H26.6.16	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度の在庫不足も回復傾向にある。昨年度のような原木不足が生じないよう市場には常時一定量の原木供給が必要。 ・ 一年間を通して見た場合、カラマツの原木調達はその地域でも厳しい状況が続くものと予想。なお、地域によって資源状況が異なるため、地域単位での供給調整が重要。 ・ 年度末にかけて国有林が実施した3万m3の追加販売(委託販売(一般公売))は、原木不足の市場等にかなり良い影響を与えたと感じている。 ・ 地域によっては運材車が不足している。山土場に購入した素材があっても直ぐに搬出できない状況が現れている。木材の安定供給のためには、そのようなことも課題として捉えて関係者で対応することが必要ではないか。 	現時点で供給調整必要なし
	第2回 H26.9.26	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国有林材の委託販売(一般公売)は概ね順調。製材品ではサンギ、押し角が順調。一方、建築用材の動きは全般的に鈍い状況であるが、道東方面においては、公共工事に伴う建築用材の引き合いもあり、これに係る原木需要が12月頃まで見込まれるとの情報もある。 ・ 今後のバイオマス発電事業では原料調達(集荷)が課題であり、立木のシステム販売などにより国有林からの安定供給をお願いしたい。 ・ 苫小牧港では輸入(欧州)材が大幅に増えているが、荷が動いている状態(対前年同月比:約150%)。今後、多少の影響はあるかもしれないが、国産材の普及のためにもここで国産材の供給を絞らないことが重要。 ・ 9月の集中豪雨により、素材生産事業そのものには若干の遅れが生じている程度であるが、今後、林道等被害による出材への影響が懸念されるため、早期の林道等の復旧が重要。 ・ 地域により木材需要に温度差はあるものの、針葉樹パルプ材は木質バイオマス発電向け、広葉樹パルプ材は上質紙向けの生産が増えるなど、生産された原木は順調に動いている。一方、カラマツ合板用材は厳しい状況にある。民有林材においても、安定供給は重要と認識しているものの、出材料にバラツキが出てしまうので、多めに出材された場合であっても需要者(製材工場等)には安定的な受け入れをお願いしたい。 	現時点で供給調整必要なし
	第3回 H26.12.12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 函館港からの韓国・中国向け丸太の輸出量が既に昨年を上回っている。また、留萌流域においても道産材の有効利用の一環として、留萌港から韓国向けにトドマツの輸出が行われた。当面は、丸太の輸出になるものと考えているが、より付加価値の高い製材を輸出することも必要。 ・ トドマツ製材品では、住宅向けの需要が減退しているが、型枠用資材(棧木等)の需要は堅調。現在、トドマツの原木消費量、入荷量ともに順調であるが、地域別に見ると出材量、消費量等にさがあるため、地域差解消に向けた安定的な供給が必要。 ・ 今後のバイオマス発電事業では安定した原料調達(集荷)が課題。立木による調達も検討しているが、人手不足となっている造材業者及び運送業者の確保が難しい。国有林からは立木及び素材でのバイオマス資材の安定的な供給をお願いしたい。 	現時点で供給調整必要なし
北海道	第4回 H27.2.24	<ul style="list-style-type: none"> ・ 素材の供給は一年を通じて順調であったが、素材委託販売(公売)は、年度当初に局ホームページで公表している。月別出品予定量と販売量に若干のアンバランスがあったように感じている。来年度はできる限り月別予定量と販売量に差が生じないように調整をお願いしたい。 ・ トドマツの供給については、今年度は例年になく一年を通じて安定的に原木を入荷することができ、在庫量も昨年に対し3割増しと不足感はない。 ・ 住宅部材の海外(欧州)メーカーが北海道の販売を広げるとの新聞報道もあり、今後は海外との競合も厳しくなるものと思われる。 ・ カラマツ製品の受注と生産は堅調で、原木消費量は増加傾向にある。一方、年明け以降、運材車の確保が難しくなっているため、雪解け後の出材減に備えた原木在庫の積み増しは十分進んでいない。 	現時点で供給調整必要なし
	第1回 H27.5.29	<ul style="list-style-type: none"> ・ カラマツの原木の消費量が昨年よりも落ちている。在庫量は反転して増えてきている。動向によってはカラマツの需要に陰りが見えてきそうで不安感がある。 ・ 製紙向けの丸太については集荷、在庫とも計画どおり推移している状況だが、夏以降バイオマス発電原料の集荷が始まれば製紙原料への影響は避けられないのではないかと危惧。 ・ 原材料の集荷の増加が確実に見込まれるので、造材会社、運材を行う業者探しに力を注いでいる。 ・ 本年度から本格稼働するバイオマス事業にどのように対応していくか。減ることはないにしても増える需要にどのように対応していくのか。量的なバイオマスの話と質的な住宅対策などを組み合わせながら道産材の供給を図っていく取り組みが必要。 ・ 材の搬出は時期が重なってしまう状況の中で運材業者が減少、運転手も少ないことから運材業者待ちという現象が起きている。昨年は年度内に運材できなかったこともあったとのことなので、今年はどうに対応していくかが大変重要。 	現時点で供給調整必要なし
	第2回 H27.9.18	<ul style="list-style-type: none"> ・ トドマツについて夏以降道内外の合板工場の需要が高まり、加えて輸入製材の納期遅延の影響により、少しずつ流れ出している様子。トドマツ製材品については長めの納期を取っていたものに対する注文が入り始めており、10月に向けて回復してくるものと期待。しかしその後は未だ不透明。 ・ カラマツについては、輸出向けの梱包材やパレットの使用率が前年と比べ下がっており、残業もなくなり平常稼働となっている。各社2~3ヶ月分の製材在庫を持っており、昨年から見ると動きが悪い。 ・ Lチップ原料については不足しており、原木の在庫も非常に少ない。価格だけでなく、出材料が少ないということで各社とも心配している状況。 ・ バイオマス発電について、6月から本格的にプラントの施工と集材を開始したイワクラは9万m3の目標に対し、現在2.5万m3集まっており、最低目標である6万m3は達成できる見込み。他社は10月から火入れ。道内材だけではなく、青森やインドネシアからも充てる考え。国有林の立木システム販売も活用していきたいとの考え。 	現時点で供給調整必要なし

局	開催日	概要	供給調整の必要性の有無
東北	第1回 H26.6.12	<ul style="list-style-type: none"> 原木不足は解消されてきたが、3.00m、3.65m材の引き合いは強い。 製材用はある程度需給バランスがとれている。合板用は強含みで、原木・ラミナとも一段高い価格で安定推移。チップ用は不足。 6月以降の原木不足を想定して、事前集荷による在庫維持に努力。 岩手県では、慢性的な作業員不足とトラック不足が続いている。高性能林業機械購入への持続的な支援措置が必要。 為替安定の中、米マツは下がっている。レッドウッドも2,000円～3,000円/m3下がっている。不足の事態も懸念。 	現時点で供給調整必要なし
	第2回 H26.9.4	<ul style="list-style-type: none"> 青森県では、製材用素材の入荷は順調。製品の販売は受注残が2ヶ月以上となった。 岩手県では、製紙用広葉樹チップは需要に対して原木供給が間に合っていない。発電用チップは順調に出荷され、納入されている。 秋田県では、大型製材工場の稼働等により丸太不足感が常にある。 災害公営住宅に関わってきている事業者は、相変わらず忙しい。 山形県では、福島向けのラミナ用材の需要が旺盛。長距離輸送が増加し、トラック不足でやりくりに苦労。 	現時点で供給調整必要なし
	第3回 H26.11.20	<ul style="list-style-type: none"> 青森県内の製材所は、製品市況が低迷している中、素材に対する引き合いは強い。 岩手県の発電用の素材については、納材が順調に行われている。在庫増により保管場所が狭くなっているため、保管場所の増設を依頼。 岩手県では、円安傾向にもかかわらず外材のラミナが下がっている。スギ・カラマツ集成材単価は九州でも福島でもなぜ下がるのか分からない。 東北は合板工場が多く、BC材が余っていない状況から、原木での輸出はなじまない。 素材・製品運搬のトラックやドライバーが不足し、円滑な原木供給等に支障を来しており、支援策等の検討が必要。 新しい業種(バイオマス発電)が出てくる中、既存業種には原料がないことのないよう、素材の安定供給をお願いしたい。 	現時点で供給調整必要なし
	第4回 H27.2.25	<ul style="list-style-type: none"> 製紙用チップ素材は、広葉樹の素材生産量が減っているため、集荷に苦労している。地域によっては、針葉樹チップ素材は合板用素材に近い価格になっている。 復興関係の補助事業の影響もあり、合板用素材の出材は多い。 宮城県の素材、製材品は岩手県から入ってくるものが多いため、岩手県南部に合板工場ができると、その影響が懸念される。 合板は生産調整により在庫が増えないようにしているが、2月に入ってから特に荷動きが緩慢となっている。 日本からの輸出丸太が上海で5万m3の在庫となっている。中国の住宅・不動産市場があまりよくなく、丸太輸出は去年までとは状況は違ってきている。 ルーミアニアで年間10万m3の中型断面を生産する集成材工場から輸入される予定があり、その影響が心配される。 	現時点で供給調整必要なし
	第1回 H27.6.25	<ul style="list-style-type: none"> A材の流通がびたりと止まっており、価格も相当安くなっている。金額の大小に関わらず、今後も売れにくい状態で推移していく見通し。森林組合では販売担当者へ丸太の生産にストップをかけ、大型工場を含めて入荷制限が続いている状況。 低質材についてはチップとバイオマスの競合により、高値で推移している。しかし、このまま上がればそれに押し上げられる形でA材の価格も上がり、採算が取れない。バイオマス発電がますます出ているが、燃やすものはあるのか。 輸出については韓国は日本の林業に対してとても関心がある。しかし、スギに関しては素材以外に出していないので、スギで完成品もしくは住宅そのもので輸出することが課題である。 外材については円安傾向ではあるが、かなり下がってきている(米マツ、ホワイトウッド、レッドウッド集成材、KD材)。3000～6000円/m3くらい下がっている。 	現時点で供給調整必要なし
第2回 H27.9.2	<ul style="list-style-type: none"> 6月末に各メーカーがメディアを介して大幅な減産をアナウンスしたことから全体的に動きは悪く、製材、合板工場では受入制限が続いている。また、フロア合板用合板や型枠合板用の製造が増えるということで、カラマツよりもトマツの需要があるとのこと。 価格については製材用(A材、B材)は下落が続いており、合板用は横ばい、製紙・発電用(C材、D材)は高値で横ばい。福島県の一部の方曰く、スギが関東方面で極端に安い値段で出回っている(ラミナの単価ほど)。 輸出についてはチャイナショックの影響からか、中国、台湾向けは急激に冷え込んでいる印象(それでも商社からの問い合わせはまだある)。しかし、台湾との株は連動していないので、現在行われている総統選が終われば大きな需要があるとの話も出ている。また、輸出の強みは港は入荷できる時間が非常に長いので、低質材については輸出をしたい話が出ている。 国有林に期待する取り組みとして、早生樹種の開発、再造林を促すための苗木(コンテナ苗)の数量確保とコンテナ苗のコストダウン、どこの材でも受け入れてもらえるようにプレカット工場の設備投資に対する支援など。 	現時点で供給調整必要なし	

局	開催日	概要	供給調整の必要性の有無
関東	第1回 H26.5.26	<ul style="list-style-type: none"> 消費増税の影響は、予想していたほどではなく、しばらく大きな変動は見られないと考える。しかし、来秋に予定されている消費増税10%後の動向が、非常に不安である。 年間を通じた木材供給の安定を図る意味でも、国有林材の生産を現在よりも年間を通じて一定量となるようにしてほしい。 スギ価格の高値保合が続いている。これは、消費増税の駆け込み需要の影響で、製材工場等の在庫が少なく、原木の手当に動いているため引き合いの強い状態が続いているからと考える。 ハウスメーカーがホワイトウッド・ペイマツ等外材集成材の代替品として、スギ集成材を使用しているため需要が高まって、価格が上昇している。今後の、外材価格の変動を注視することが重要である。 	現時点で供給調整必要なし
	第2回 H26.8.6	<ul style="list-style-type: none"> B,C材の需要はあるが、A材の需要が伸びない。A材の需要拡大がなければ、A材がB材需要の市場に出回り、木材価格の下落に繋がる。 A材大径木の需要拡大には、無垢中断面、大断面の商品化が課題。公共建築物の大断面集成材を無垢中・大断面を利用できる規格等の設定が必要。A材を集成材のラミナとして使用することなく、無垢材として使用することが本来の姿。 各県の増産計画に対し、素材生産業者の素材生産能力が追いついていない。新たな素材生産業者の育成が必要と考える。 スギ価格は高止まりしたまま夏場に達しており、このまま秋需に向けて価格的には好調に推移すると思われる。 	現時点で供給調整必要なし
	第3回 H26.11.11	<ul style="list-style-type: none"> 最近特にB材、C材の需要が多く、A材需要の少ない中、今後皆伐が増加してA材が多数出材されるようになって、合板・ラミナ等B材需要に供給される可能性がある。 A材需要の拡大が急務であり、そのためには大断面及び中断面ムク材を使用した公共建築物の普及や現在米マツ平角材が使われている部材に対して国産材の利用を拡大する必要がある。 過去の消費増税前の駆け込み需要における木材価格高騰の要因は、需要量の増加に供給が追いつかず、需要と供給のバランスが崩れたことが大きい。 最近の円安の影響により、外材と国産材の価格差が少なくなっている。外材が高くなれば、国産材志向が高まり、価格が高くなることが予想される。今まで国産材の供給不足を外材で供給していた部分に、国産材を使用することが課題である。 	現時点で供給調整必要なし
	第4回 H27.2.3	<ul style="list-style-type: none"> 昨年後半より比較的好天が続く、各業者とも素材生産の進捗は順調である。一方で市場の素材のたぶつき、それに伴う材価の下落が懸念される。 製材工場では、従来の長尺材一辺倒の生産ではなく、ホームセンター等を通じて消費される消費者のニーズに見合った製品生産が必要となる。 梱包材、合板用等2m短尺材の需要が増える中、B材中心の間伐においては、全て2m造材を実施することにより、生産効率が向上するとともに、歩留まりも向上し、生産コストも抑制がなされる。 スギの素材価格については、昨年度からの高値を維持しており、大手製材工場の設備投資による原木消費量の増加から、引き合いも良く、今後も堅調に推移すると思われる。 静岡県には大型製材工場が無く、静岡県内で生産されたヒノキ素材の大半は、東海方面の大型工場に流通販売されているため、ヒノキの素材価格は東海地区の景気動向に左右されやすい傾向がある。 現在、円安の影響により、外材価格より国産材価格が安い傾向にある。外材が使用されている部材への代替えとして、新たな国産材の利用を促す好機である。 	現時点で供給調整必要なし
	第1回 H27.6.2	<ul style="list-style-type: none"> 製材品の需要不振が続いており、3月中旬以降原木市場における顧客の購買意欲がなくなっている。それに伴い原木価格の下落も続いている。 需要の回復は、盆明けから秋口頃まで見込めず、素材価格は弱保合から弱含みで推移する見通し。そんな中、静岡県においては合板工場との協定販売が始まっており、素材価格の下支えとなっている。 今後消費増税による需要拡大に期待したいが、昨年のような駆け込み需要は起こらないと予想している。 立木販売価格上昇のためにはA材価格の底上げが必要であり、A材特に心持無垢材の需要拡大が必要となる。A材需要拡大のためにも、現在住宅メーカーが外材を使用している梁・桁等の部分に国産材を使用するようPRすることが急務。 	現時点で供給調整必要なし
	第2回 H27.9.10	<ul style="list-style-type: none"> 素材の入荷量は素材価格の下落による出材意欲減少や生産調整により、昨年に比べ大幅に減少している。そんな中、製材工場は素材在庫も減少しており、原木の購買意欲は高まっている。また、消費増税後、落ち込んでいたプレカット工場にも明るさが見え始め、原木購入にも積極性が見られる。 2017年4月の消費増税前の駆け込み需要、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けての木材需要拡大に期待するが、前回以上の反動減による落ち込みも懸念される。民間事業者は急激な需要の変動による影響が大きい。行政による配慮が必要。 素材入荷量の減少から、素材価格は6月下旬に底打ち。原木市場では在庫量が減少し、品薄感からスギ、ヒノキともに価格は上昇している。秋口以降価格の上昇基調が定着すると期待。 ヒノキ価格の回復は、製品市場の回復による需要増によるものではなく、出材量減少による一時的な回復との見方もある。 	現時点で供給調整必要なし

局	開催日	概要	供給調整の必要性の有無
中部	第1回 H26.6.3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 備蓄林への対応については速効性を持たせるべき。手続き等に時間がかかるようでは意味がない。 ・ 2月中旬頃からヒノキの価格が下がってきた。大手よりヒノキの価格を下げてくれないかとの話もある。価格交渉が厳しい状況。 ・ 山仕事をする人材を育成すべき。若い人を育てる仕組みが必要。それには雇用の安定した職場が必要。 ・ 昔は立木随契があった。山の雇用を図るのであれば、長期の立木随契を考えるべき。 	現時点で供給調整必要なし
	第2回 H26.9.4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工場を動かすために原木を消費している。しかし、製品在庫は通常の2倍程度ある。これは異常な状況である。 ・ 製品が売れないのは、ハウスメーカーの業績が悪いことも1つの要因。消費税の影響だけでなく、住宅を建てるキャパが小さくなってきた。 ・ 並材であっても品質管理をしっかりとし、販売にあたっては、地域の特性(ブランド)を強めていくことが重要。 ・ 価格の上下は供給側、需要側どちらにも責任がある。お互いに考えていかなければならない問題。 	現時点で供給調整必要なし
	第3回 H26.12.4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市場では、原木はまんべんなく売れている。ただし、構造材ヒノキの流れが悪い。需要開発が必要かと考える。はけ口がなければ山側の生産をいくら調整しても無理がある。 ・ ヒノキが売れない原因として大壁工法になってしまったことも1つの要因。何も見えないのであれば集成材でも良いという考えがある。 ・ 国産材の需要拡大については在庫も関係する。内地材については、在庫を持っているところはない。従って、急な需要があった場合には、在庫切れとなる可能性がある。これに比べ外材は埠頭材が多くあり、在庫が切れることはない。内地材の方が不安定であるということ。 ・ 輸入材が円安等の影響で価格上昇するのではないかとの見方もあり、国産材にニーズが向く可能性がある。そのニーズに応えるような対応が必要である。このチャンスを逃してはならない。 	現時点で供給調整必要なし
	第4回 H27.3.18	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒノキの製品在庫が多くなってきている。A級品は間屋へ、B級品は市場へ流しているが売れずに残っている。この状況が何時まで続くのか全く読めない状況。 ・ A材・B材が下へ下へと下がっている。それに伴い平均単価が下がっている。価格の下げを止めるために量を絞る(生産しない)というのも1つの考え。 ・ スギとヒノキでは様相が違う。スギの価格は上がり調子、逆にヒノキの価格は下がっている状況。スギについては供給が非常にタイトになっている。尚且つ価格も上がっている。ヒノキについてはスギとの価格差があるためバイオマスもまだ手をださない。 ・ 木質バイオマスは灰の処理費が課題。年間で結構な処理費が発生する。今後バイオマス発電所が乱立すると灰の処理が課題となってくる。 	現時点で供給調整必要なし
	第1回 H27.6.10	<ul style="list-style-type: none"> ・ A材品売れにくい。C、D材が不足し、チップ会社が値段を上げてきている。A、B材が引っ張られる可能性もある。 ・ 円安による外材価格高騰により、ホワイトウッド→スギ、米ヒバ→ヒノキに転換する動きが出てきている。 ・ 山仕事をする人材を育成すべき。若い人を育てる仕組みが必要。それには雇用の安定した職場が必要。給料が非常に低いため、将来が不安になり辞めてしまう。 ・ 中小の製材工場は良質材で勝負しているところが多い。山作りから始まって良質材が流れる仕組みをつくらないといけない。 	現時点で供給調整必要なし
	第2回 H27.9.2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前年と比べ、民有林からの出材は少ない。現在もヒノキ価格の低迷から出材を見合わせている。国有林の委託・システム販売がないと厳しい状態。暑さと雨のせい今年は特に材の痛みが早い。 ・ 盆を過ぎてもなかなか需要が伸びない。輸出も少なくなった。注文住宅はある程度伸びてきているが規格住宅・建売が非常に悪い。底が見えない状態。 ・ 今まで林業にあまり力を入れていなかった地域の方が逆に今は勢いがある。昔から林業に力を入れている地域は今の価格で出材したくないし、材価がいい時代も知っている。力を入れてこなかった地域はB、C材がメインになっている今の流れに順応している。 ・ 国産材製品については価格が高いわけではないのに使用されない。安定的供給がされない、使いすぎると価格が上がるとの警戒心から使われない。価格、品質、供給の安定さえあれば国産材にもチャンスがある。それには生産が低コストで安定的な供給体制を作ることが必要。国有林には民有林の手本となり、普及される供給システムの構築を期待したい。 ・ 大手への流れはできてきたが、中小への流れが不十分。国には中小の山主、工場へのてこ入れを進めてもらいたい。そうしないとA材の流れができない。 	現時点で供給調整必要なし

局	開催日	概要	供給調整の必要性の有無
近畿中国	第1回 H26.5.30	<ul style="list-style-type: none"> 国産材の需要構造が変化しており、(大規模工場等では量が確保できず)一部輸入材への回帰も見られる。 国産材の供給拡大に向けて、皆伐による循環型の林業へ持っていくためには、まずは苗木の確保が必要である。 バイオマス発電の本格稼働等新規需要分野が拡大しており、既存の分野では素材を確保できなくなる恐れがある。 木材供給に係る近中局のシェアは限られているが、当局管内の木材供給等について引き続きしっかりとメッセージを出していく必要がある。 	現時点で供給調整必要なし
	第2回 H26.8.7	<ul style="list-style-type: none"> 製材、合板等メーカーは在庫を抱えている状況である。 岡山県真庭市に木質資源安定供給協議会が発足するなど、木質バイオマス発電向けの荷動きが旺盛である。 今後バイオマス発電所の稼働ラッシュが想定され、積み上げていくと原木が足らなくなる懸念がある。 製品の運搬について、運転手不足によりトラックが手当てできないケースがある。 	現時点で供給調整必要なし
	第3回 H26.11.12	<ul style="list-style-type: none"> 奈良県吉野地方では縁集材が主体であるが、ヘリ会社が1社で2機体制なので、順番待ちの状態となり出材が遅れている。 合板用のB材価格が、バイオマス燃料向けの需要が加わったため、下がらない状態である。 新設住宅着工数の低迷に伴い、合板メーカーは減産を継続し、丸太入荷を抑えている。 合板価格は、全国でほぼ同額であるのに対して、合板用原木価格は地域によって差があり、西では採算が厳しい。 国産のヒノキ板材(乾燥材)については、近年、中国や韓国からのオファーが多い。 	現時点で供給調整必要なし
	第4回 H27.2.6	<ul style="list-style-type: none"> 紀州地区では、今年は雪が降らないため順調に出材してくるが、需要は盛り上がらないので、土場は溢れ原木は行き場を無くしている。 下級材は、バイオマス燃料や小丸太向け需要が競合しており、底が上がっている。 来年に持ち越された消費増税までの間、製材業界では持ちこたえられず倒産や廃業に至るものが出てくる懸念がある。 合板原木は購入価格を上げて量もそろわないことから、高くても外材を手当てしている。 昨年の円安ユーロ高は、年が明けて円高に戻り、ユーロの先高感が消えた。 	現時点で供給調整必要なし
	第1回 H27.5.14	<ul style="list-style-type: none"> 製材、合板等の需要は引き続き低調なまま推移しており、スギ、ヒノキの原木価格に大きな動きはないが、木質バイオマス発電施設が各地で稼働し始めており、チップ用材の価格は上昇傾向にある。 小径木は山元より需要先へ直送されている。 円安ユーロ高で欧州からのプレカット用仕入れ価格は低下している。国産材丸太も価格が低下しているが、製品価格への転嫁が遅いため、プレカットは商売がしやすい。 岡山から韓国へヒノキ製品(風呂、まな板、壁板など)を輸出している。特に女性に人気。また、現地の設計士は建築材にヒノキを使う設計や、在来の軸組工法の勉強をしており、伸びるのはこれからだろう。 	現時点で供給調整必要なし
	第2回 H27.8.6	<ul style="list-style-type: none"> 7月の台風、大雨等悪天候が続いた影響で出材が少なく、また伐り控え等もあり山からの出荷が減っている。特にヒノキの土台は無いもの高で高値になっている。 全国的な住宅着工は在来木軸の戸数ベースで今年3月から増えているが、一戸あたりの住宅面積は低下傾向であり、着工床面積から見ると控えめに見る必要がある。 合板価格は6月中旬まで650円程度まで落ちたが、減産効果もあり8月には800円ほどまで戻った。合板メーカーは減産を継続しているが、主に外材中心に進めており、国産材には影響が少ないように努めている。 B材価格はこれまで合板が決めてきたが、今はバイオマスが決めるという状況が現実化してきており、合板用価格に対して危機感を抱いている。 ヒノキのラミナ需要が予測される一方で、ヒノキ原木の出材が少ないことから、国有林のシステム販売で長期契約を結び、安定供給できないか。 	現時点で供給調整必要なし

局	開催日	概要	供給調整の必要性の有無
四 国	第1回 H26.9.25	<ul style="list-style-type: none"> 本年度はじめには駆け込み需要後の反動で価格は下落したが、今は落ち着いている。 台風災害による公道・林道の被害により、出材に影響が出ており、復旧を急ぐ必要がある。 木材流通は、大型製材工場やバイオマス発電建設に伴い変わってきている。 製材工場の大型化に伴い需要も大型化しており、生産や路網にかかる大型インフラの整備が必要となっている。 	現時点で供給調整必要なし
	第2回 H26.12.19	<ul style="list-style-type: none"> 現時点では、製品市場の需要低迷の影響から在庫が多い状態が続き、製品価格は抑えられ、原木価格にも影響している。 8月災害の影響で落ち込んでいた原木生産は、11月には平年並みに回復している。また、木質バイオマス発電用の原木受け入れも始まり、全般的には原木生産は順調。 構造材を中心とした製品の荷動きは鈍く、ヒノキの価格は下落している。 B材、C材の需要が増加してきている。一方でA材の製品流通は秋需の頃を迎えても伸び悩んでおり、入荷量や市況は横ばい状態が続いている。 	現時点で供給調整必要なし
	第3回 H27.3.13	<ul style="list-style-type: none"> 大型製材工場の本稼働や木質バイオマス発電施設の稼働により大幅な増産が必要となり、高知県では平成27年度70万m3を目標としている。 今後、主伐も増えてくるが、川上では人材確保が難しい状況。また、搬出量が増えてくるが、川下での受け入れ体制がうまくできていない。流れがうまくいくような仕組みの検討が必要。 ヒノキは値下がりがしている。スギは値動きが激しいが、これは大量注文による一時的なものがある。愛媛県でも、協定販売による安定的な価格設定が必要であるが難しい状況。 	現時点で供給調整必要なし
	第1回 H27.6.23	<ul style="list-style-type: none"> 製品市況が依然として悪く、需要動向の見通しが見えない状況。実需拡大に向け工務店等への販売強化が必要となっている。また、製品在庫が増加しており、川下側から丸太の値下げ要求もある状況。 バイオマス発電施設では原料集荷に苦労しているが、順調に稼働。 生産者側では梅雨時期に入り出材が進まない状況にあり、梅雨明けしないと出材の回復は見込めない。また、山手側の人材不足が深刻化してきており、行政等による更なる手立てが必要。 木材価格は低迷しているが、各県においては大型製材工場やバイオマス発電燃料等の資材確保が必要となっており、増産計画を実施している。高知県では72万m3(対前年10万m3増)を目指し努力。 	現時点で供給調整必要なし
	第2回 H27.9.18	<ul style="list-style-type: none"> 事業地の確保が重要であり、そのために民国連携による団地化に取り組んでいる。 素材生産量は昨年並みの確保が見込まれるが、製材品の動きが心配。 製品市況は本年6月が最安値で7～8月に持ち直している状況。なお、構造材は昨年より厳しい状況であり、造作材は昨年とほぼ同程度で安定している。 原木市場は価格の低迷と入荷量の減少で厳しい状況。 製材品の地産外商を推進する上で、工務店への差別化が必要となっている。 	現時点で供給調整必要なし

局	開催日	概要	供給調整の必要性の有無
九州	第1回 H26.5.29	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒノキの市況が悪い中で、生産をスギにシフトし、これがスギの需要のバランスを崩す可能性がある。また、供給調整までは必要ないが、全体のバランスを考える必要がある。 ・ 国産材チップの供給が不安定であるため、製紙会社は輸入することも考えられる。C材が不足しており、供給量の安定が必要。 ・ 3年くらい国産材を使ってもらえば、外材に戻りにくい。ここ3年間は重要な時期である。 ・ 合板は、昨年度後半はずっと原木不足で大変だったが、今は落ち着いている。ただし、バイオマス等にB材が引っ張られると、秋口から大変なことになるのではと心配している。安定供給が必要であり、そのための素材生産業者の人材育成が急務である。行政の対応も考えてほしい。 	現時点で供給調整必要なし
	第2回 H26.8.25	<ul style="list-style-type: none"> ・ 梅雨明け後の台風などの天候不順により、原木市場に木材が集まらない状況である。国有林のみでなく、民国全体として丸太の供給を増やす必要がある。 ・ 製材所の意識が変わり、安定した価格で原木を買うようになってきた。製材所は昨年の経験から、製品の在庫を増やして供給体制を整えてきている。 ・ 合板の生産は、現在、減産体制をとっているが、九州の住宅着工戸数の減少はそれほどではない。木材輸出と木質バイオマス発電所向けの需要が増えており、今後、A・B材も需要が逼迫してくる可能性がある。 ・ 現在、減産体制をとっている紙パルプメーカーは秋口には稼働率を上げる可能性がある。木質バイオマス発電所用の原料材として原木が欲しいという要望も増えている。原木供給のため労働安全対策を含めた、林業労働対策、路網の整備が必要である。 	<p>今後の木材の動向等を勘案すると、当面の供給増を検討することが必要であると考えられる。</p> <p>↓</p> <p>森林管理署に対し、木材の需要動向等を踏まえ、素材生産を着実に実行するとともに、当面、立木販売の前倒し実施に取り組むよう指示。</p>
	第3回 H26.12.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原木市場への出材は9月まで少なかったが10月、11月で落ち着いた。地元の製材工場には安定的に供給できている。山から製材工場等までの原木の直送が増えており、市場を中間土場の機能として利用できないか検討している。 ・ 秋口に入って製品が売れなくなった。製品の流通先は消費税増税を見越して在庫をためていたようだ。山から大型製材工場等への原木直送が増えた。結果、市場の価格が上がっても出材量が増えない状況になっているようだ。 ・ 合板は全国的に良くないが、九州は需要堅調である。針葉樹型枠用合板を増やす計画をしており、原木は出したり出さなかったりではなく、安定的に供給して欲しい。 ・ 輸入チップ価格は上がっているため、国産チップを安定的に使っており、調整のために輸入チップを使用している状況。原木の供給調整はC材ではしにくく、A材、B材あつてのC材である。カスケード利用のバランスが崩れることが不安である。 	現時点で供給調整必要なし
	第4回 H27.2.19	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出材量は潤沢であり、価格は下降している。高性能機械の導入と山元からの直接出荷を行っているが、受け入れ側の理解も深まり、現場仕分けを「A、B材」と「C、D材」の2区分に簡素化している。現場作業は、機械化と安全の確保への取組、機械、人材の共有化に県をまたいだ取組が必要で、こうした取組により材の安定供給につなげていきたい。 ・ 原木は10月から順調に出荷されている。製品は、住宅着工がそれほど減っていないのに不振で、スギKD材に販売の手応えがなく価格が不安定化している。小径材の方が尺上材を上回ることとなり、価格体系が落ち着いておらず、A、B材に力強さが無い。供給調整までは必要ないが、危険水域に入っており、つかみがたい状況である。 ・ 基本的状況は変わっておらず、上の需要減が続いているが、九州では生産調整には至っていない。製紙用原料の集荷困難が続いており、C材の入手努力を続け国産材の使用を続けていきたい。為替安から輸入材も高く、国産材も高い状況である。C材需要の動きが、A、B、C、D材のカスケード利用を崩しており、紙パルプ原料用も含めて、C材の増量策を模索して欲しい。 ・ 為替の変動などいろいろと問題はあるだろうが、原木生産を止めることなく、前向きにやっていくことが重要である。県をあげて、県産材の販売拡大に取り組んでいるが、小丸太から大径材までの利用のバランスが必要であり、キチンとした製品が安定して供給されれば売れると考えている。木材輸出も製品輸出に変えていくべきで、山の宝を循環利用することが必要であり、その循環が続くように国有林、民有林で取り組んで欲しい。いろいろと課題はあるが、大きな意味での生産の継続を行って欲しい。 	現時点で供給調整必要なし
	第1回 H27.6.10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅着工は統計データ以上に落ち込んでる様子。H25年度の駆け込み需要で製品の供給が止まり、特にヒノキ製品が常識のない値下げをしてたき売りを行ったため、国産材の供給方法について評判を落としている。 ・ 木材需要はバイオマス発電、輸出用等低質材中心の需要が増えている。素材生産現場は低質材を出すために伐採量を増やしており、このことがA材、B材の価格を下げている。A材、B材、C材のバランスが壊れている。 ・ A材、大径材、ヒノキの需要を増やさないと価格は上がってこない。国内の需要開拓をしていくことが一番の課題。 ・ 高性能林業機械を購入しているところは機械の支払いを行うため、常に生産をしている。天候が回復すれば材は一気に市場に出てくる。また、国有林の事業を行う業者は3～5月に仕事がないため、立木買いを行い、皆伐を始めて一気に出してくる。国有林の素材生産は年度末を視野に入れながら供給してもらいたい。 	現時点で供給調整必要なし
第2回 H27.9.14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月後半から合板メーカー各社が自主的に減産し、加えて梅雨や台風の影響で原木が入ってきていない。秋からの需要増が期待できるのではないかと。 ・ 選挙の影響で公共事業が若干遅れていて、県や市町村の議会が終われば一気に発注がでるのでは。 ・ 市場は価格が見えるようにすべき。素材生産業者は林業機械を購入しようとしても先が見えないと買いにくい。 ・ B材以下は需要が高まっているが、A材・大径材は価格が不安定。このような状況では民有林が主伐をしようにも主伐を促す材料がない。所有者も納得しない。 ・ 日向の中国木材製材工場、北関東・東北の大雨による水害、CLT・国産2×4等新たな需要といった需要が増える要因があるので、供給量を増やすべき。 	現時点で供給調整必要なし	